

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長

浜瀬 健司

クロマトグラフィー科学会会員の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃より本学会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。クロマトグラフィー科学会第 18 期の会長を仰せつかりました、九州大学大学院薬学研究院の浜瀬です。歴代会長の先生方の後を引き継いで伝統ある本会の会長を拝命し、身の引き締まる思いです。2024 年の年頭にあたり、本学会の活動状況をご報告すると共に、ご挨拶を申し上げます。

クロマトグラフィー科学会は 1989 年（平成元年）に発足し、本年は創立 35 年目です。発足以来クロマトグラフィーに関する分離・検出ならびに関連技術に特化した国内最大の学会として、年 2 回の学術集会（初夏のシンポジウムと秋の科学会議）の開催、クロマトグラフィー関連分野で優れた業績を出されている会員の方に対する各賞の授与、会誌（CHROMATOGRAPHY 誌）の編集発行などの事業を継続し、会員の皆様と共に歩んで参りました。

学術集会につきましては 2020 年からコロナ禍が直撃し、第 31 回科学会議（2020 年 11 月、静岡、轟木先生）、第 32 回科学会議（2021 年 11 月、野田、東先生）、第 29 回シンポジウム（2022 年 6 月、石垣、浜瀬）は感染の波の合間をぬって対面開催できたものの、第 27 回シンポジウム（2020 年 6 月、徳島、高柳先生）、第 28 回シンポジウム（2021 年 6 月、徳島、高柳先生）、第 33 回科学会議（2022 年 11 月、東京、加藤先生）は誌上・オンライン開催を余儀なくされました。ようやくコロナ禍が明け、2023 年は 4 年ぶりに第 30 回シンポジウム（6 月、岐阜、リム先生）、第 34 回科学会議（10 月、福岡、巴山先生）の両学術集会が揃って対面開催されました。今後は皆様の学術交流も一層深まることと期待されます。

学会誌（CHROMATOGRAPHY 誌）におきましても、2023 年は大きな意味を持つ年でした。2014 年に当時の大塚会長、齊戸事務局長のリーダーシップで開始した CHROMATOGRAPHY 誌の改革ですが、2014 年（35 巻）2 号からアクセプトと同時に DOI が付与され、同 3 号からは J-STAGE での早期公開とフリーアクセスが開始されました。2016 年 9 月には Web of Science の Emerging Sources Citation Index に収録され、2022 年から Journal Impact Factor が付与されました（IF2022、1.714）。この間、2015 年からは「CHROMATOGRAPHY Best Presentation Award」をシンポジウムと科学会議において選考・授与するとともに、2016 年からは第一著者で英語論文が投稿・掲載された学生会員に対し、「CHROMATOGRAPHY Outstanding Student Paper Award」の賞とトラベルアワードの授与が行われてきました。いずれも若手研究者に対するモチベーションの向上と投稿数の増加に寄与したものと思われまます。2024 年（45 巻）からは表紙デザインも刷新され、北川慎也編集委員長の下で更なる発展が期待されます。

2024 年は 6 月に新垣先生を実行委員長として那覇で第 31 回シンポジウムが開催され、11 月に植田先生を実行委員長として諏訪で第 35 回科学会議が開催される予定です。これからの 2 年間は高柳副会長、北川文彦事務局長、北川慎也編集委員長をはじめ、理事・評議員の皆様と共に本会の益々の発展のために微力ですが精一杯努力して参る所存です。会員の皆様の一層のご支援ならびにご協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。